

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 3月15日

事業所名 oliveやまうち

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	40%	60%		・学習室と活動室を分け、空間にゆとりとメリハリができた。	・全職員での、改善目標を設定し強化を図ります。
	2	職員の配置数は適切である	40%	60%			・全職員での、改善目標を設定し強化を図ります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		20%	80%	・視覚的アプローチ方法をニーズに合わせて取り入れ	・全職員での、改善目標を設定し強化を図ります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	40%	60%			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		100%			・アンケートを元にした、改善状況の情報共有化を図ります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	20%	20%	60%		・今回、ホームページ情報共有化を図りました。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%		60%		・他事業所との連携関係を図ります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			・外部研修を積極的に参加。情報を所内で共有する。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%			・アセスメント様式改善と情報共有化を図ります。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%			・情報共有化システム改善を図ります。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%			・情報共有化システム改善を図ります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	60%	40%		・天気や、職員配置などで変更になることもあるが、なるべく予定どおりに活動している。	・よりきめ細かい設定が出来るように、改善を図ります。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	20%	80%			・活動取り組みへのシステム再構築を図ります。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%			・情報共有化の改善を図ります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%					
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	60%	40%			・支援内容とガイドラインのリンク状況が分かる様に、共有化の改善を図ります。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 3月15日

事業所名 oliveやまうち

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	80%	20%			・個人情報取り扱いに注意しながら、情報共有化の改善を図ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	40%	20%	40%	・対象児がいないため	・想定される情報の共有化を図ります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	40%		・対象児童がいないため	・想定される情報の共有化を図ります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	20%	20%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%		80%	・コロナのため、交流会などは開催していません ・今年度はコロナ流行もあり、最小限の活動に留まる。	・新型コロナの動向を見極め、交流会の連携協力が取れる様に準備を進めます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	40%	40%	20%		・情報収集を行い、積極的参加が出来る様を図ります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%		40%		・支援内容の情報共有化を行います。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	60%	40%		・相談窓口の一本化。 保護者が安心して相談できる体制と信頼関係作りを心掛けている。	・気軽に相談できるシステム構築を行い、早期対応と対処が取れる体制を作ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20%		80%	・今年度は開催を中止し、自粛対応。 ・今年度はコロナのため、開催していません。	・今年度は、計画未実施となってしまいました。 新型コロナの動向を見極め、早期実施を図ります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	60%	40%			・要望と苦情を収集できる環境を作り、対応の体制整備を行います。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				
	35	個人情報に十分注意している	100%				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			100%		・新型コロナの動向を見極め、地域とつながりのある事業所作りを図ります。
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%			・マニュアル保管箇所の改善し、再周知を行います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%		20%		・不定期となっている為、固定した実施が行える様に改善します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	40%		・他害行為の対応など、共通理解して虐待未然防止に努める。	・新職員への研修スケジュール作成し、個別での研修実施が出来る体制を作ります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	20%	20%		・組織的決定が行える環境整備を行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	40%	60%			・指示書の有無情報を含み、情報共有化の体制整備を行います。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	60%		40%		・情報共有の強化を行います。